

フオグランブ

京都府の球技専

用スタジアムを巡

る住民投票の条例

制定案が、亀岡市

議会9月定例会で

否決された。議案

の討論に立った市

議の発言は熱を帯

びていたが、一般の市民と

の間に温度差があるような

気がしてならない。

条例案で定めた住民投票

は、スタジアムの建設予

定地変更に伴い、市が新

たにJR亀岡駅北側の土

地区画整理事業地3・2

分を約34億円で購入する

ことこの是非を問う内容だっ

た。

市は保津町の旧建設予定

地を約14億円で買収済み。

新予定地を購入しても、当

初から予定するスタジアム

関連費約50億円を超えない

と説明する。ただ、300

億円ほどの一般会計の予算

規模から考えると一大事業

施設、宿泊施設等の投資が

増え、市の収入も

派が主張するように、選

挙で選んだ市議が決めるこ

と、という認識もあるだろ

う。

それでも自分事としてと

らえ、動くことができれば、

その結果をしっかりと引き

受けることができるのでは

ないだろうか。

スタジアムへの関心

であることには変わりな

い。

経済団体などは新たなス

タジアムに関し、にぎわい

につながる施設になるよう

なにか必ず問われる時が来

る」とする。

税収が伸び悩む中、高齢

化に伴って扶助費は増え、

市財政は年々厳しさを増し

ようとしている。

にもかかわらず、一般市
民の間でスタジアムが話題
に上がることが少ないよう
思う。「関心がない」とい
う声も聞く。

スタジアム推進派の市議
は「交流人口の増加や商業

施設、宿泊施設等の投資が

増え、市の収入も

派が主張するように、選

挙で選んだ市議が決めるこ

と、という認識もあるだろ

う。

それでも自分事としてと

らえ、動くことができれば、

その結果をしっかりと引き

受けることができるのでは

ないだろうか。

市財政は年々厳しさを増し

ようとしている。

(中村幸恵)